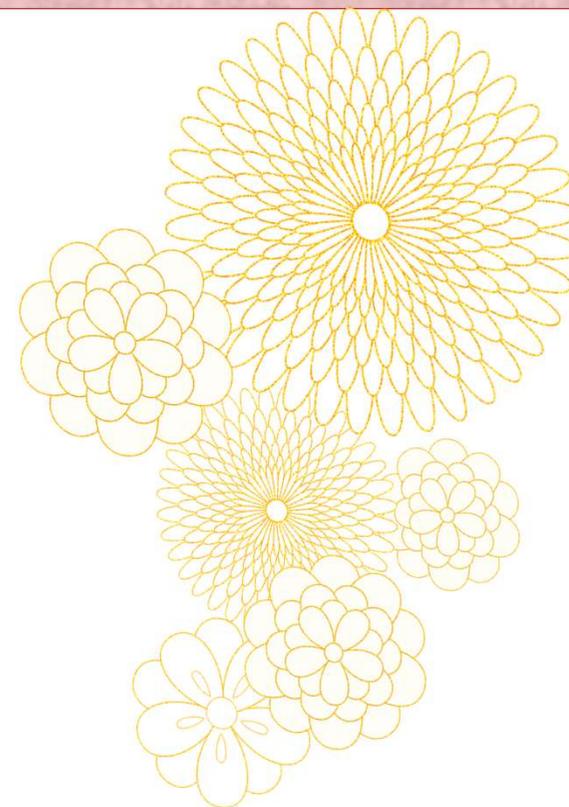
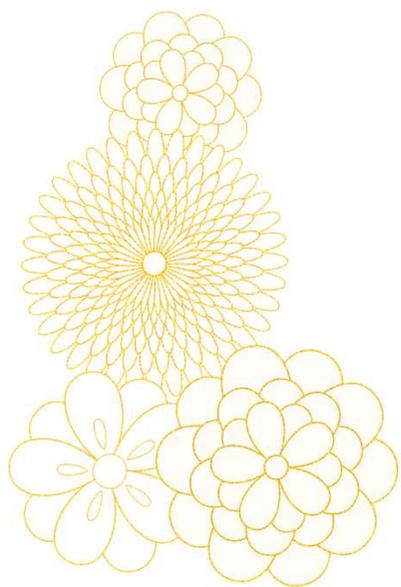


「京都基本構想」について



大

# 「京都基本構想」について

○京都市基本構想と京都市基本計画を統合し、**基本構想をベースとした「京都基本構想」として策定**。

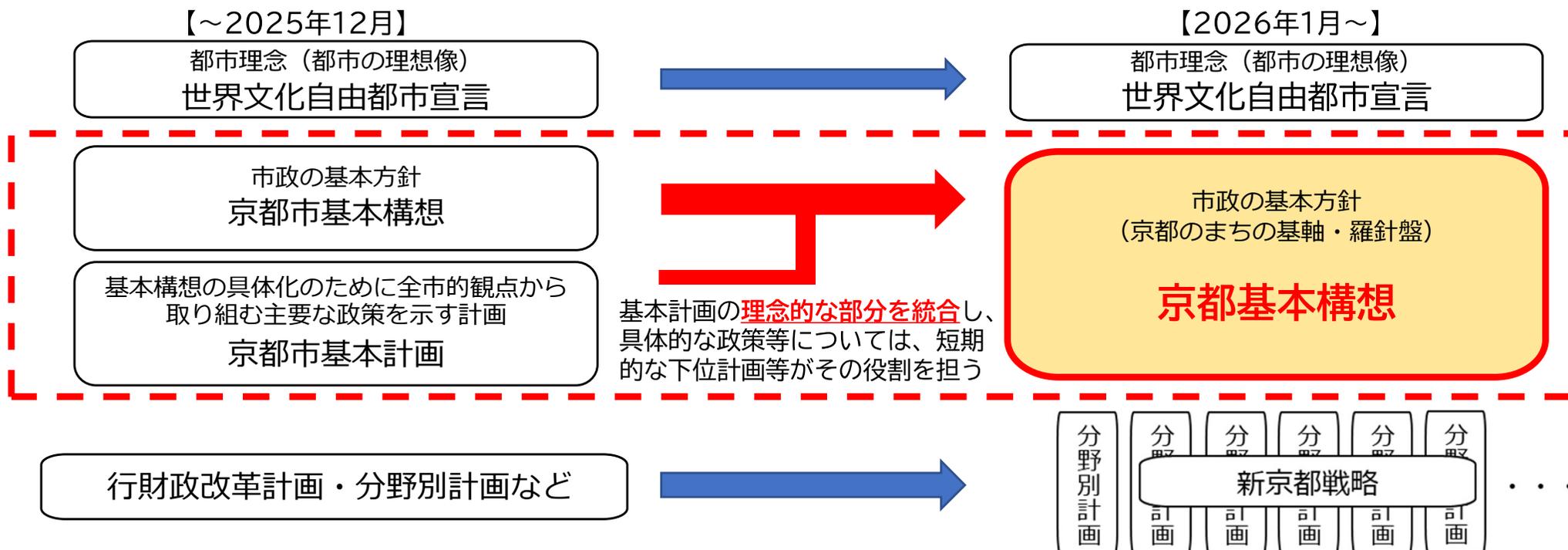
○構想期間は、前基本構想と同様、**25年間(2026～2050年)**とする。

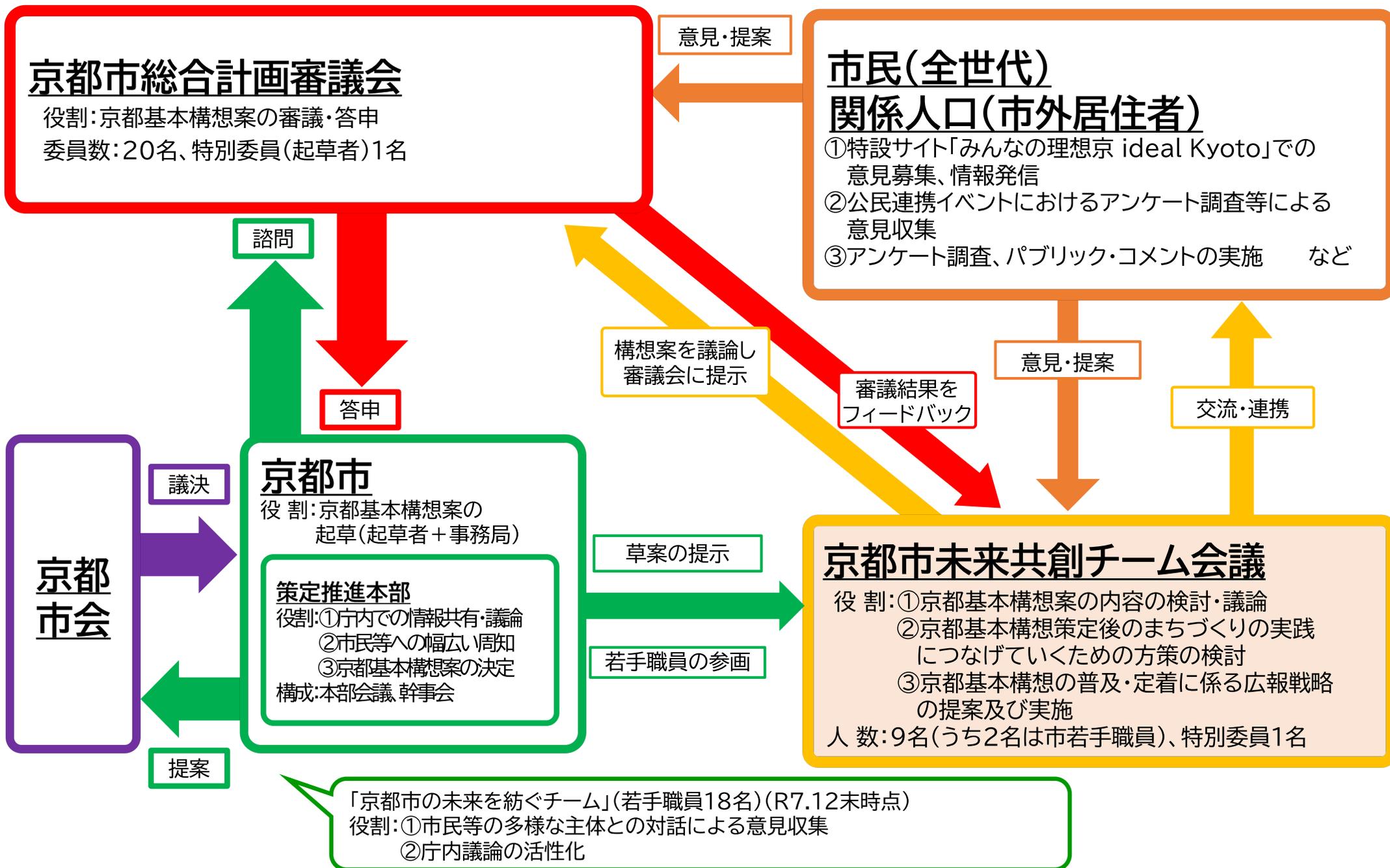
## <京都基本構想策定にあたって>

- ・ 総合計画(京都市基本構想及び京都市基本計画並びに各区基本計画)が2025年12月に終期を迎える
- ・ 地方自治法改正(2011年)により、「基本構想」の策定義務規定が廃止

## <本市の考え方>

- ・ 不確実性・複雑性が高く、先行きが不透明で、変化が激しい現代社会において、未来を予測することはますます困難になっている
  - ⇒ 時代に左右されない京都のまちの基軸、羅針盤として「京都基本構想」を描く
- ・ 複数の政策領域を跨ぐ課題に対応する分野横断的な計画を策定しており、基本計画の役割と重複
  - ⇒ 効率的な行政運営を行うことが必要





# 「京都基本構想」の概要について

## ○「京都基本構想」は、序文及び5つの章で構成

### 序文

基本構想に通底している京都独自の3つの価値を示す。

- ・ 歴史と文化を介して人間性を回復できるまち
- ・ 自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち
- ・ 自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち

### 第一章 京都基本構想策定の背景

時勢が複雑化の一途を辿る中で、世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものとして、本基本構想を策定することを示す。

### 第二章 京都のかたち（※世界文化自由都市宣言の「自己の伝統の深い省察」に対応）

序文で示す3つの価値が生まれた背景、歴史的経過を示したうえで、それがいまを生きるわたしたち京都市民のくらしの中に受け継がれていることを示す。

### 第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題（※世界文化自由都市宣言の「世界の現状の正しい認識」に対応）

世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示す。

### 第四章 わたしたち京都市民がめざすまち

序文で示す価値を未来に受け継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いている。

### 第五章 京都を生きるわたしたちのこれから（※世界文化自由都市宣言の「理想の実現に向けた市民の努力」に対応）

このまちで日々のくらしを営む京都市民はもちろん、京都市とさまざまな関わり方を有する方々も広く「わたしたち京都市民」として捉え、そうした人々と事業者や団体、行政、市会とともに、これからのまちの基盤を築いていくことを示している。